

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201471		
法人名	株式会社アクタガワ		
事業所名	アクタガワ ハートフルホーム城北		
所在地	静岡市葵区池ヶ谷6-20		
自己評価作成日	平成30年3月14日	評価結果市町村受理日	平成30年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&jigyosvCd=2274201471-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

性格が明るく親しみやすい職員が多く、お客様のご家族様が来所した際にも、気軽に会話が出し、楽しんで生活できるようになっている。また、月に一度老人会に参加をしたり、地域のお祭りに参加したり、地域との交流にも力を入れている。提携医は24時間対応可能なのに加え、訪問看護ステーションほたる静岡とも提携し、健康管理に関してお客様やご家族様も安心して下さっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

つい最近も青葉公園のイルミネーション見学に出かけて季節の風物詩を堪能し、現管理者着任後から「1ヶ月に一度は戸外へ」という考えを推進しています。また法人ではシフト体制を変えたことから人員が薄くなる時間帯ができたため「外出やレクリエーションの実施が難しい」として、当事業所では10時～15時の時間帯にパートタイマー職を新たに配置するよう本部に申請して、状況を改善しています。厳しい指導のある市から異動となった管理者なこともあって基本が身につけており、センサーマット導入に家族と同意書を交わすとともに、身体拘束排除の委員会開催が半年に1回あり、本件の適正化に向け安心な体制を整えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	チーム会議などで、13時会で再確認や会話の中に取り入れている。 スタッフが目にしやすい場に掲げている。	事務所掲示とともに会議で唱和して意識の継続を図っているほか、法人制作の「お助け本(理念が掲載されている)」を読むように、と管理者が機会あるごと促しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	センター内のコンサートやふれあい祭りの際には、地元の方に出展を依頼したり、お呼びして交流に努めている。	3町合同の花火大会に出かけたり、白寿会(老人会)にも加えてもらえ、地域の活動に積極的に出るとともに、中学校の生徒が夏休みを訪れたり、園児の遊戯披露の慰問受入れもあり、双方向に往来があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月二十日に老人会への参加(白寿会)をしており、体操やお話を地域の方に向けて行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの実際を報告し、そこでの意見をサービスに取り入れている。又、お客様や職員(担当以外の)の出席もできるよう努めている。	運営推進会議は民生委員4名がメンバーとなっており、満床への提言や家族意見の収集への助言の他、アニマルセラピー導入等親身で有益な意見を挙げてくださることを議事録で確認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と必要に応じて連絡を取り合っており、サービス内容の確認をしたり、アドバイスを頂いている。	市役所、地域包括支援センターの運営推進会議出席が見られないものの、市主催の集団指導には必ず出向き、シニアサポーター制度も活用して連携に努めていますが、介護相談員の受入はありません。	運営推進会議の案内、議事録の提出が滞らないよう、工夫があるとなお良いと思います。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で身体拘束となる具体的な行為について学んでいる。	身体拘束排除の適正化については集団指導の内容を把握できていますが、それ以前からセンサーマット導入にあたって身体拘束に係る委員会開催を半年に1回実施して、安心の取組体制にあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成し、常に注意を払い、防止に努めており、職員に対し、3ヶ月に一度虐待防止自己チェックシートを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などで学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分時間を取り、本人や家族の様子について聞き取りをすると共に、契約の内容について説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、文書・口頭での説明を行い、家族との情報交換の際にも口頭で伝えている。	家族の都合もあり、面会率は高いとはいえませんが、それでも「若草の家城北通信」で利用者本人の様子を届け、法人が実施する顧客満足アンケートでは要望を把握して向上点を得ています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼、13時からの昼礼、月に一度のチーム会議等で職員から意見や提案を聞き、運営に反映させている。又、自己査定報告書でも、意見を聞く欄を設けている。	新管理者の考えを以てチーム会議は月1回を2回に、朝礼に昼礼(13時会)をプラスして、「報連相を密に」という態勢に在ることが見え、休憩の取り方が変わったことも職員意見からです。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	改善提案書を提出してもらい、意見を検討、反映している。職員の介護技術に応じた社内資格制度を整備し、また、資格取得のための研修を実地している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度、教育トレーナーによる介護技術の勉強会を実施し全員参加している。段階に合わせた社内外の研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の受講や、事業所連絡会へ出席し他事業所との交流・意見交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用当初は出来る限り、近くに寄り添いながら対話を行い、毎日実施している13時会で職員間で情報共有をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	報告書、または家族の来所時に直接話をして、今後のケアに役立てたりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お客様の状態を把握し、状況に応じて他のサービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者の思いや苦勞を理解、共感すると共に、個々の生活歴を日々の語らいや家族との会話の中から拾い上げ、ケアへと結び付けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	報告書などを用いて、毎月ご家族と情報交換を行い、情報を共有し、一人ひとりのケアに反映させている。家族会等にて、意見交換もしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	もともと生活していた地域にある施設であり、近隣等の友人が歓談しに訪問している。	白寿会のメンバーは旧知の仲ということで毎回参加を心待ちにしているとの例や、「ちょうど冬服を買いたい時期」ということもあって事業所が企画した洋服の移動店舗には3家族が参加して下さった日もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の相性を把握し、レクリエーションなど職員が入り、コミュニケーションが取りやすい様に配慮している。 スタッフが間に入り会話を盛り上げる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事等へ招待している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、常に近い存在として寄り添いながら対話している。	更新時や体調変化にはアセスメントと個別対応表の見直しをおこなっています。また表情の変化から牛肉が好きだと分かり提供につながって喜ばれた例もあり、職員が気づいたことは申し送りノートに残しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴を日々の語らいや家族との会話から拾い上げ、スタッフ間で共有し、ケアへと結び付けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状況を的確に把握し、申し送りやチーム会議により現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、チーム会議を行い、ケアカンファレンスの中で意見やアイデアを出し、介護計画に反映させている。	チーム会議内でおこなうカンファレンスで挙がる職員意見と介護記録、介護支援経過等をベースに、計画作成担当者兼介護支援専門員が介護計画書を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月、チーム会議を行い、ケアカンファレンスの中で介護計画を見直し、必要に応じて新たな計画を作成するよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランの内容以外にも、お客様の希望に対して、一番良い方法で対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の民生委員が運営推進会議に出席している。また、消防署の職員に来て頂き、消防訓練を実施したり、小学生や中学生の福祉体験学習の支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による往診が定期的に行われているため、ご家族様にも理解して頂き好評であり、協力体制は構築されている。	7名が月2回訪問診療のある協力医に変更し、従来のかかりつけ医の通院介助は家族にお願いするも「難しい」とのことから職員がおこなっています。医療情報はパソコン上の看護記録と個人ファイルに残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お客様に変化があれば、訪問看護へ通達、健康チェック、主治医との対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談員との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、主治医、訪問看護、ご家族と連絡を取り、日々の状況を報告し、職員にも日々対応を指示している。	看取りの実績は過去にはあります。今年度はないものの、医師からは「高齢だから移設するのは本人に負担…此処でみれるだけみて～」といった向きの言葉がこぼれ、訪問看護事業所との連携もできていて、医療体制が整っていることが覗えます。	緊急時の延命治療の有無について家族と書面を交わすか否か、再検討することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	チーム会議の中で研修を行なう。社外の救命、救急の研修への参加に努めている。マニュアルを作成し、見える所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の実施。全社員の参加。災害用ペットボトル水の保管。マニュアルを作成し、見える所に掲示。	法定訓練は9月、11月と年間計画に定め、本年度は「地震から火災での避難」「水消火器」をメニューとし、利用者も一緒に水消火器を体験しています。備蓄は1階倉庫に3日分あります。	職員が万遍なく体験できるよう、来年度はシフトにも配慮、工夫があることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症研修等を行い、常に人格を尊重して、言葉掛けや行動のプライバシーの確保に努めている。	食事介助では若い男性職員が本人の気持ちに副って優しい言葉をかけ、時にはタッチングし、また周囲の人の箸の運びにも気配りして声をかけている様子を視認しました。	声のボリュームや言葉に配慮が欲しい場面もありましたので、該当職員のマンツーマン接遇訓練は時間を増やすよう希望します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いが伝わるまで傾聴したり、本人の意思確認をできる範囲まで広げてコミュニケーションをとっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様一人一人のペースを理解しながら、介護している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に何度か理美容を利用できる日を設定し、希望により対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と共に席につき、食事が楽しく取れるようにしている。	カレーライス、オムライスなど毎月1回調理レクリエーションを実施し、時節行事(「雛祭り=ちらし寿司」)に合わせた食事提供にも心掛けています。誕生日当日にはケーキを購入して、皆でお祝いしています。	食事中、刻みがしっかりカットできていないと分かったとの場面で、調理ばさみを利用者の目の前で使用していましたので、マナー改善に向け検討に加えることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いての摂取量のチェックを行っている。時間ごとに水分を提供している。身体状況に合わせた食事形態もすぐに対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるところは自分でやって頂き、できない所のみ介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いた定期的なトイレ誘導を行い、失敗の不快感を減らし、残存能力の活用に努めている。	リハビリパンツの利用から布パンツへと向上はないものの、半分以上が尿意もあり、職員が伴わずとも自らトイレに行き来できる利用者も2名います。Pトイレは使わず、夜間もトイレに向かってもらうように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と多めの水分補給を促している。又、往診医やご家族との意見交換も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決め、一人一人に合わせた入浴を実施している。	現在シャワーチェアとなった人が1名いますが、2人介助で可能ならば浴槽に浸かってゆっくりしてもらえるようにしています。拒否も「増やして欲しい」の要望もなく、全員週3日の入浴が続いています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、宿泊の際は、日頃のパターンに合わせた就寝時間に行っている。日中は、希望があればベッドにて、休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬の表を入れている 変更時は申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様一人一人が生活の中で役割が自然と出来上がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は希望に応じて散歩やドライブに出掛けている。	14時～15時の時間帯はレクリエーションの一環で散歩タイムとし、池ヶ谷東公園に向かうコースが定番となっています。この時期は桜を眺めて散策でき、利用者も満足気です。初詣、梅や河津桜、ショッピングモールと、毎月1回のドライブ外出も慣行されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が金銭管理を行い、本人の希望があれば使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の希望、又はセンター内に電話があり、取次の希望があれば支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の生活空間は、家庭的な設備や物品として、清潔で明るく、お客様に染みやすい空間になっている。	こあがりの和室は食後にのんびり横になりながらも仲間の賑わいを感じることができるスペースとして活かされ、大きめの掲示ボードには職員手作りの動物マグネットで行事写真が貼られ、話材提供となっています。	ふすまの取っ手が欠けていたり、へこんでいたり、埃が溜まっていたりする箇所もありますので、チェック機能を高めるとともに、経年劣化への対応を中長期で協議できたら良いと思います。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き、皆の声を聞きながら、お客様が一人になったり、お客様同士で話が出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自分の部屋という感じが持てるようにし、安全で落ち着いた環境作りをしている。	化粧水をつける小机と椅子、それからデスクスタンドとメガネケースが置かれたミニ書斎のスペースとが配され、家族写真に囲まれて此処に14年暮らす女性利用者の居室を視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ等に手すりを取り付け、お客様一人ひとりの安全を確保している。トイレの場所などわかるよう廊下の床を色分けしている。戸も小窓を付けたりして、分かり易い特徴を出している。		